

目 次

第3版はしがき

はしがき

プロローグ	I
1 本書の目的	I
2 本書の内容	3
3 本書を読む際に気を付けるべきこと	6
4 法学を学ぶ意義と卒業後の進路	9

第I部 法の世界

第1章 「社会」について考えよう	17
1 社会って何だろう	17
2 社会をなぜ作るのだろうか——社会があることのメリット	20
3 社会があることによる負担・課題	23
4 社会あるところ法あり	26
5 言葉の整理——「社会」と「法」	27
6 ま と め	27
第2章 社会と紛争と法	29
1 「紛争」とは	29
2 ルールに基づく紛争解決	34
3 法 の 分 類	38
4 ま と め	45

第3章 紛争を法的に解決する	46
1 はじめに	46
2 法の適用	47
3 法の解釈	54
4 まとめ	59
第4章 民法——契約法・不法行為法	60
1 はじめに	60
2 契約法	62
3 不法行為	69
4 民法——契約・不法行為以外の領域	71
5 まとめ	72
第5章 刑法——犯罪と刑罰	73
1 刑法とは	73
2 従来の反省に立った近代刑法の原則	79
3 刑事責任をめぐる諸学問	83
4 まとめ	85
第6章 行政活動と法——民法と刑法でなぜ足りないのか？	86
1 行政法にはどのような法律が含まれるのか	86
2 理容業・美容業にみる行政法	88
3 行政法の意義——民法と刑法でなぜ足りないのか？	93
4 行政法の構造	95
5 まとめ	99
第7章 裁判制度の仕組み	100
1 手続法というルール	100
2 刑事訴訟	100
3 民事訴訟	105
4 審級制度	109
5 まとめ	112

第8章 法と正義	114
1 はじめに	114
2 三種類の「正義」	115
3 形式的正義・実質的正義・手続的正義と法	122
4 ま と め	126

第Ⅱ部 法学部で学ぶ

第9章 法学部でどう学ぶ？	131
1 はじめに	131
2 どのような知識を身につけるか	132
3 学習のつまずきの石	135
4 ま と め	145

第10章 定期試験・レポート試験を受ける	146
1 はじめに	146
2 論 述 試 験	146
3 レポート試験	152
4 ま と め	162

第11章 法学部生の1日	163
1 はじめに	163
2 大学の履修制度	164
3 大講義の受講	166
4 ゼミの受講	171
5 ま と め	178

エピソード	179
-------	-----

「年齢と法」Q&A 目次

Q1 4月1日生まれと学年……………19	Q8 賭け事……………91
Q2 遺言の作成……………31	Q9 15歳未満の者の労働……………103
Q3 脳死移植のドナー……………39	Q10 子どものテレビ出演……………117
Q4 性的自己決定……………49	Q11 定年年齢……………135
Q5 他人に損害を与える行為と責任…63	Q12 成年年齢……………147
Q6 刑事責任……………75	Q13 飲酒や喫煙……………157
Q7 権利をもつことのできる年齢……83	Q14 選挙権……………171